

大藪小学校教育

【学校教育目標】

『仲間意識をもち、自ら学び、考え、行動する子どもの育成』

【目指す学校像】

- 子どもが楽しく安心、安全に過ごすことのできる学校
- 小中9年間の学びと育ちのつながりを大切にし、保護者や地域の人々に信頼される学校

【目指す子ども像】

- 深く考える子
- なかよく助け合う子
- 元気でがんばる子

【目指す教職員像】

- 「チーム大藪」・・組織として大藪小教育を推進する
・組織の一員として自分事として考え、対応する教職員
・相手の心に寄り添える教職員
・学び続ける教職員

【学校経営方針】

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着を図るとともに、自ら学ぶ意欲と
主体的に学習する態度の育成を図る。
- 自己を大切にする心を育み、児童が望ましい人間関係を築き、集団の一員と
して互いを認め合い励まし合う態度の育成を図る。
- 自分自身の健康を保持・増進しようとする意識と実践的な態度を養うとともに、
児童一人一人が安心して安全に過ごすことのできる教育環境づくりを推進する。
- 学校・家庭・地域が連携し、小中一貫教育による「学びと育ちをつなぐ」取組
や開かれた学校づくりを推進する。

【深く考える子の育成】

- ・「学ぶ楽しさとわかる喜び」を実感
できる授業授業を目指した効果的な
指導方法や指導体制の工夫・改善
- ・基礎的・基本的な知識や技能の習得
と言語活動の充実
- ・実践的英語力の育成
- ・LD等支援の必要な子どもの学力向上

【なかよく助け合う子の育成】

- ・道徳教育の充実
- ・豊かな感性・情操を育む教育の充実
- ・規範意識の育成
- ・多様性を理解し、受容する心の育成
- ・支えあい高め合う集団づくりと絆
づくりの取組の推進

【元気でがんばる子の育成】

- ・体育学習、運動部活動の充実
- ・保健教育の充実
- ・飲酒・喫煙・薬物に関する指導の
徹底
- ・安全教育の充実
- ・食に関する指導の推進

『自分から元気に挨拶をしよう』 『時間を守って行動しよう』 『廊下や階段は右側を歩こう』

【久世3校小中一貫教育目標】

「自分で考え、行動する子どもの育成」

めざす子ども像

- (1) 「元気にあいさつする子」
- (2) 「たくさん読書をする子」
- (3) 「自分で家庭学習をがんばる子」

◎重点的な取組

(1) 自ら学び、考える子（「深く考える子」）の育成

①すべての子どもが自己の将来の生き方を見据え、学校での学びと社会とのつながりや「学ぶ楽しさとわかる喜び」を実感できる授業を目指した効果的な指導方法や指導体制の工夫・改善を図る。

○主体的・対話的で深い学びを重視した授業を通して、学びの質を高める。

- ・授業のめあて、見通しの確認やまとめと振り返りの徹底
- ・目標や特質に応じた評価の適切な実施と「指導と評価の一体化」に向けてのさらなる充実
- ・自ら課題や疑問点を設定し、調べ、解決しようとする過程を大切にした探究活動のさらなる推進（地域資源を生かした自然体験、社会福祉体験、生産活動など、多様な学習形態を取り入れる）

○ICTを効果的に活用した学習活動をさらに進め、より質の高い学びの実践を行う。

○専任と担任との連携を活かしたよりきめ細かい授業の構築を図る。（教科担任制の推進）

○「全国学力・学習状況調査」「ジョイントプログラム」の結果分析を踏まえた授業改善、学力向上の指導の充実を図る。

(2) 基礎的・基本的な知識や技能の習得と言語活動の充実を図る。

○日々の授業と家庭学習の連動を通して、自学自習の習慣化を図る。

- ・「久世ノート」などを活用し、児童自らが課題を選択し、学習計画を立てて進めていく力の育成
- ・久世三校版「家庭学習のてびき」を活用した保護者への働きかけ

○朝の読書活動の充実、学校図書館の有効活用を推進する。

- ・図書館を「学習・情報センター」「読書センター」として教育課程の中に位置付け児童が主体的、意欲的に学ぶことのできる図書館経営の工夫

(3) 実践的英語力の育成を図る。

○英語を用いて互いの考え方や気持ちを伝えあう言語活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

- ・ALT、中学校との連携の推進
- ・イングリッシュシャワーの取組の推進

④LD等支援の必要な子どもの学力向上をめざす。

- LD等通級指導教室担当教員、総合育成支援員と連携を図り、「個別の指導計画」を活用しながら個々の児童の課題を明確に捉え、行動面だけでなく学力面への支援の充実を図る。
 - ・ケース会議の充実
 - ・2年生を対象とした「ひらがな聞き取りテスト」の実施

(2) 仲間意識（「なかよく助け合う子」）の育成

①道徳教育の充実を図る。

- 道徳性を育てるこことをねらいとした活動、自己の生き方についての考えを確立する活動等を意図的、計画的に進め、そうした力が児童の日常の行動に顕在化されるようにする。
- 道徳科では、体験活動など多様な実践活動を生かして、道徳的価値の理解を深める指導の充実を図る。
- 保護者や地域との連携を図り、開かれた道徳教育を推進する。
 - ・道徳教育推進月間における保護者、地域への授業公開
 - ・保護者、地域への情報発信

②伝統文化や芸術を通じ、豊かな感性・情操を育む教育の充実を図る。

- 伝統文化を生み出し、守ってきた人々の長い歴史と情熱、そのすぐれた知恵や技を受け継ぐことの大切さを、茶道をはじめ、様々な伝統文化体験等を通じて理解し、伝える取組を推進する。

③規範意識の育成を図る

- 児童が望ましい人間関係を築き、集団の一員として協力する態度を育成する。
 - ・具体的行動目標「自分から元気にあいさつをしよう」「時間を守って行動しよう」「廊下や階段は右側を歩こう」を目指した取組の徹底
- 情報モラルの指導を通して、「インターネットの危険性から子どもを守る」という啓発・安全教育に留まらず、それを正しく使い、役立てるために必要な力を育む。
- 関係機関と連携した「非行防止教室」や「薬物乱用防止教室」を実施し、社会生活を送るうえで人間として持つべき規範意識を育む。

④多様性を理解し、受容する心の育成を図る。

- すべての児童が様々な障害についての正しい理解を深め、互いを尊重し、共に成長し合う教育を推進する。
 - ・育成学級についての理解を深める
 - ・計画的、組織的な交流学習を推進する
- 研修等により、障害による特性の理解と的確な実態把握についての専門性を高め、一人一人の教育的ニーズに応じた指導内容や指導方法を工夫する。
- 「就学支援シート」「個別の指導計画」等をもとに、保護者と連携をとりながら指導内容や指導方法の工夫、改善を図る。
- LGBTQについて、教職員が正しい認識を深め、児童に受容性の幅を広げる取組を進める。

⑤支えあい高め合う集団づくりと絆づくりの取組を推進する

- 自己肯定感、自己有用感等の自尊感情を高める中で、自分の力を学級全体のために役立てるとする風土を創りあげる学級経営を進める。
 - ・カリキュラムマネジメントの視点での、「ピア・サポート」活動の充実

- ・クラスマネジメントシートの活用

- 児童会、委員会活動等、児童の主体的・自発的な活動の充実を図る。
- 児童の自己指導能力の育成に向けて、「自己存在感の感受」「「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安心・安全な風土の醸成」を意識した教育活動を推進する。
- 「いじめの防止等基本方針」に基づき、学校体制としての「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を推進する。
- いじめアンケートの結果から児童へのヒアリングを行い、いじめの兆候を見逃さない取組の推進を図る。

(3) 自ら考え、行動する子（「元気でがんばる子」）の育成

①体育学習、運動部活動の充実を図る

- 組織的、計画的な安全管理と健康管理を徹底した上で、運動することの楽しさ、喜びを味わうことのできる体育学習、運動部活動を推進する。
 - ・部活動ガイドラインの遵守
- 児童の体力や運動習慣等における特徴と課題を明確にし、運動能力及び体力の向上に向けた取組を推進する。

②保健教育の充実を図る。

- 生活アンケートの実施や姿勢指導などを通して、基本的な生活習慣を身に付けることが健康の保持・増進につながることを理解させ、保護者へ積極的に働きかける。
- 新型コロナウイルスのような新たな感染症をはじめとする病気やけがに対して、その原因や予防策を正しく理解し、自分自身の健康を保持・増進しようとする意識と実践的な態度を育てる。
- 発達の段階を踏まえて、性に関する教育の指導を充実させる。

③飲酒・喫煙・薬物に関する指導の徹底を図る。

- 飲酒、喫煙、薬物の有毒性・危険性についての正しい知識を身に付けさせるとともに、体育科、道徳科、特別活動等での関連した指導や薬物乱用防止教室の指導を徹底する。

④安全教育の充実を図る。

- 日常生活の様々な危険から身を守るためにの知識、判断力が身につけられる安全教育の推進と交通ルールを遵守した安全な自転車の乗り方に関する指導を徹底する。
 - ・地域と連携した自転車教室の実施
- 防災教育、防災管理の充実を図る。
 - ・災害発生時に適切に対応し行動できるための計画的な避難訓練の実施
 - ・引き渡しの方法等、具体的な対応について検討し、各家庭と連携を図る
 - ・野外活動における入念な現地下見

⑤食に関する指導を推進する。

- 栄養教諭と連携した食に関する指導の充実と保護者への積極的な働きかけを行う。
- 伝統的食文化の継承や「地産地消（知産知消）」、食品ロスなどの環境問題といったSDGsを意識した取組を推進する。
- 「京都市小学校における食物アレルギー対応の手引き」に基づいた食物アレルギーに対する理解と対応の徹底を図る。